

令和6年2月

校長氏名 鷲見 二郎

1 自己評価の結果と分析

(1) 教育目標・基本方針

取組指標

○学校経営計画・方針を学年・学級経営方針（自己申告）に反映しているか。

- ①教育目標や基本方針について年度当初の職員会議において学校経営計画・方針を全職員に示し、周知しそれを基に人事考課として自己申告書を作成させた。授業観察と自己申告面接を定期的実施、日々校内を巡回し、観察に努めている。面接において自己の業績を振り返ることで学校経営計画・方針を周知し指導している。

(2) 自ら学ぶ合う子の育成

取組指標

○基礎的・基本的な学力の定着

- ①学習指導要領をもとに、各教科指導における児童の資質・能力の育成を目指し「主体的・対話的で深い学び」を具現化し、授業改善ができていますか。
 ②落ち着いた学習環境の中で、集中して学習に取り組ませられるよう学習規律を身に付けさせているか。
 ③学力定着度調査の分析、考察をいかし積極的に授業改善に努めているか。
 ④「きたコン」の活用と正しい使い方ができているか。家庭学習の習慣化を図れたか。

○個に応じた指導

- ⑤学力パワーアップ講師や学級経営支援員を活用し、児童一人一人に丁寧な指導を行っているか。

- ①「学び合い」を生かした授業改善について、全教員が肯定的意見を教職員評価（以後：教評）で示した。引き続き協同的な学び、深い学びとして「見方・考え方」を自在に働かせる指導法を探究する。
 ②児童の学習に向かう姿勢は、落ち着いているという肯定的意見（89%）となった。要因として児童自身の心がより安定してきたことを反映したと考察する。今後も児童の心理面を細やかに見極め、全教員が共通行動を取って児童理解を深め指導、対策を取っていく。
 ③⑤も併せ、基礎的・基本的な学力の定着を確実にするために、北区基礎・基本定着度調査の分析結果を全教職員で共有した。全ての基本は国語と捉え、国語力向上を校内研究で検証し、授業改善・工夫に努めた。
 ④教評で「きたコン」を活用し、工夫して授業を行ったか について活用率は85%を上回り、指導における活用が認められた。学校評価児童アンケート（以後：児ア）の結果、「きたコン」の活用率は88%を超える結果となった。家庭学習に取り組む全校児童平均は70%だった。家庭学習での活用方法も含め今後の課題とする。
 ⑤ 互いに助け合う子（思いやりのある子）の育成

取組指標

○規範意識の育成

- ①「学校のきまりや学級のルール」等の規律やルールについて、全教職員が協働して指導にあたることのできたか。「きたコン」の正しい使い方ができているか。

○情報共有

- ②職員会議や生活指導全体会、夕会で児童等の情報が共有され、指導にいかせたか。
 ・年2回実施のQ-U調査は、学級経営や児童の生活指導にいかせたか。
 ・いじめは絶対に許さない、あいさつの励行等について指導できたか。

○体力向上

- ③体育朝会の励行、「長縄トライ」による体力の向上を図っているか。
 ・衛生指導・食育指導・安全指導を意図的に行っているか。

- ① 「教評」結果では児童の「規律、ルールを守っている」の肯定的評価は80%であった。きまりやルールを児童が意識して守っていることや落ち着いた校内生活による結果と捉える。「児ア」では81%の児童が「学校のきまり」を守れたとの回答だった。引き続き反省や課題に対する確かな指導、対応をとっていく。「きたコン」の活用は肯定的意見が多かったが、更に使用基準やルールの徹底を確認していく。今後も個人に渡され、使われているが公的なものであるという意識をより徹底させる。
- ② 生活指導についての教職員間の情報共有に関して、生活指導夕会等を通し徹底できた。WebQ-U調査の結果活用は研修会を設けた。今年度は検証を通し、担任・学年・学校全体で一人一人の児童の変容をつかむよう努めた。引き続き児童理解を学校全体で共有するよう努めている。
- ③ 教評：「体力向上や健康増進に積極的に取り組んでいるか。」で70%の肯定的意見が寄せられた。リノベーション工事のため、運動施設、環境は不十分であるが、その面を補う指導や方法の改善が表れたものとする。今後は、コーディネーション運動など運動環境が不足する中でも効率的、効果的な実施方法を模索していく。

(4) 開かれた学校の構築

取組指標

○情報の受信・発信

- ① 定期的な学校HPの更新、学校配信メールの適時配信など保護者・地域に伝えられたか。・保護者の意見等を広く集め、教育活動の改善にいかせたか。・適宜学校公開をし、広く保護者に児童の学習姿勢や学校状況を知らせることができたか。

- ② 地域に根差した多様な教育活動、環境整備
- ③ 外部人材・地域人材の活用
- ・地域関係者と連携を取り教育活動の中で、協力や関係をもてたか。

「本校は、学校や児童の様子を学校だより、HP等で分かりやすく伝えているか」との設問では「教評」で82%「保護者学校評価アンケート」では77%の肯定的評価であった。今後も、緊急時など適切に学校配信メールの活用をすすめる。学校公開や学校行事参観開催に努める。外との連携に関しても、今まで培ってきた地域との関係を大切にしていきたい。

2 改善の方策

(1) 確かな学力の向上を図る。

- ① 「学校評価」等を検証した結果、国語科「読むこと」の研究を継続することが必要であることがわかった。生活時程や短時間モジュールの定着で読書やNIEの時間の設定が確実となり徐々に成果が表れてきた。カリキュラムマネジメント全体において、さらなる工夫改善をすすめる。
- ② 「きたコン」の活用が挙げられる。学びポケット等の学習コンテンツの実施、グーグルミートやロイロノートによるオンライン授業中継などを実施した。現在の教科書指導と電子媒体双方の利点を取り入れた学習指導の在り方を探究していく。またICT機器を積極的に児童が活用できるよう授業内容の改善に努める。

(2) 豊かな心と思いやりのある子を育てる。

- ① 道徳科を要に全教育活動において「考える道徳」「議論する道徳」を実践し、自分の考えを深められる児童を育成していく。「思いやりの心」や「生命を大切にする」心情を育成できるよう指導に努める。
- ② いじめは決して許さない、認めないことを教育活動全てで徹底し、人と人との関わりを大切にできる心や態度の育成を図る。

(3) 健やかな体を育てる。

- ① 限られた場所を考慮し、体育等における系統性ある年間計画を策定、実施する。健康や予防の適切な取り組みを推進する。

(4) 保護者や地域の声を学校運営に生かす。

- ① 「保護者学校評価アンケート」の提出が89%であった。保護者の協力的な姿勢を大切に、要望に応えられる教育活動、体制を構築していく。